

## 78

## 齒槽膿漏治療に際してのコーヒーの應用

景山 博水

(東京齒科醫學專門學校)

齒槽膿漏の局所療法としては根面に附着した齒垢、齒石を除去して根面を清掃し且又病的齒齦囊内の不良肉芽を搔爬すること乃至は齒齦切除手術等が今日一般臨床家の間に齊しく行はれてゐるところであり、その際手術後に使用される薬剤も枚舉に違がない程多數あるが、大體に於いて收斂乃至腐蝕劑である。齒齦マッサージに用ひられる糊劑も極めて多數坊間に發賣されてゐる。

私は齒齦囊の相當深い場合に齒齦刀を用ひて齒齦切除手術を行つた後に局所の收斂、止血をはかる目的並に齒齦「マッサージ」にコーヒーを應用して、その経過を觀察したので少數の臨床例ではあるが、その臨床成績を茲に報告したいと思ふ。

## コーヒーの齒科的應用

齒科に於いてコーヒーを最初に使用した人は Heider であつて、氏はかつて小アジアを旅行中ある酋長が重篤な赤痢患者をコーヒーで治癒せしめ得たのを觀察し、それにヒントを得てこれを齒科に應用したものと云つてゐる。更に義膜を形成したアンギーナに際してコーヒー炭を應用したところ治癒力があるのをみとめ得たと稱した。即ち左右兩側の口蓋扁桃腺に義膜を形成した患者に於いて、一側は義膜の上に葡萄糖を被覆し、他の側にはコーヒー炭を用ひたところ、葡萄糖を使用した側は翌日に於いてもなほ白色の義膜を認め得たがコーヒーを使用した側では完全に義膜がなくなり全く健康になつた。そこでまだ治癒しない他の側にもコーヒーを使用したところこれ亦直ちに治癒した。ついで鼻カタル殊に頑固な慢性鼻カタル等もコーヒーの應用で極めて短期間で治癒し、その他疫痢、赤痢のやうな重篤な腸疾患に際しても多量之を用ひその吸着作用によりて治癒せしめ得たと報告した。

Payr も同様に腸疾患にコーヒー炭を使用した成績を發表したが、氏はコーヒー炭とカルルス泉鹽を共に使用する事を推奨した。Bier は Heisler と共に口氣惡臭を主訴とした患者にコーヒー炭を應用して良き結果を得又 Geier はこれを齒齦マッサージに用ひた。Preyer も同様に齒齦炎、齒槽膿漏、口氣惡臭を伴ふ場合にコーヒー炭を使用して齒齦が緊密になることを認め且拔齒創に用ひてその治癒を促進したと稱した。Schäfermeyer 及び Mathis 兩氏も夫々齒齦炎や拔齒創に使用し、Witzel は拔齒創へコーヒーの殘滓をつめることを推奨した。

最近に至り P. Saboff は Pertocofal (Düsseldorf の Kessler が製作せしもの)、Carynpon (Krefeld の Casler が製作せしもの) Carbo Coffere (Leipzig の W. Schwabe が製作せしもの) 及び Carbo Königfeld (Madans の製作せしもの) の四種を用ひて齒齦炎 22 例、潰瘍性口内炎 1 例、齒槽膿漏臨床各型 34 例、急性齒槽膿瘍 1 例、アンギーナ 2 例、鼻カタル 2 例、計 62 例に對しコーヒー炭を用ひて極めて良結果を得たと發表した。然しどの症例に於ても本劑を用ふる前に口腔内の前準備を行はなければならぬのであつて、齒垢、齒石の除去、不良肉芽の搔爬を完全に行ひ然る後に本劑を齒齦囊内へ挿入又は貼布して置けばよいのである。又後處置として齒齦マッサージにも用ひたがこの際本劑のために睡眠障害を來す人があるといふが、これはその患者が神經質の爲であつて、これを治癒すれば良いと稱し、更に潰瘍性口内炎や齒齦の若干例にはビタミン C 含有の果汁を本劑と共に用ひた。又本劑によつて齒齦が黒くなることは心配の要なしと稱した。

次に Otto Jung はコーヒー炭を所謂腐敗根管に用ひて良き結果を得たと發表した。即ちレ線寫眞によつて根端に病竈のあるのを確かめ、これに對してコーヒー炭とビタミン C との併用療法を行つた。通法の如く齶窩を開鑿し、根管口を出し、根管内をアンチホルミンとオキシドールにて清掃した後アルコールにてよく乾燥し、その根管内へコーヒー炭とビタミン C とを貼布するのであるが、ビタミン C としてはレドキソンを用ひペーパーポイントにレドキソンを浸してその上へコーヒー炭粉末をつけて根管内に挿入して假封をした。この方法を反復して惡臭の去る迄行ひ、根端病竈の縮少乃至消失を認めた。尙 O. Jung はこの合劑にピグントールを附加すれば骨の新生を促進するであらうと記載した。

München 工科大学の植物學研究室の Dr. Boas はコーヒー炭の作用を次のやうに説明した。

(1) 吸濕、乾燥作用がある故に細菌の發育を不良ならしめ、且根端部炎症組織よりの分泌物を制止する。

(2) 細胞機能亢進作用がピクミン屬よりも強い。

(3) カフェインによる強力な殺菌作用は殊に絲狀菌に對して著明である。

#### 余の使用法並にその臨床成績

私は最近齒齦切除後の止血、收斂の目的で Cock Brand の Pure Ala Francaise Coffee を用ひた。このコーヒーを乳鉢内で乳棒を用ひて更に碎粉したものを患者に使用した。即ち豫め切除せんとする手術部に通法に従ひ局所麻酔を施し、齒齦刀を以て盲嚢底まで切除し、ついで齒石除去器を以て根面に附着せる齒垢、齒石を除去して、これを清掃し、更に有窓鋭匙にて肉芽搔爬を行ひかくして處置を終つた後、オキシドール、アクリノールを以て十分に洗滌清掃し、その創面を可及的ガーゼ綿花を以て乾燥状態にして置き、上記のコーヒーの粉末をそこに撒布して止血をはかる。止血すれば患者に含嗽を命じて處置を終る。翌日患部を見るに私の症例に於いては何れも所謂創傷肉芽中に少量のコーヒー粉末の殘留するのを認めた。併し創面が漸次瘡痕化するに及んで、痂皮の剝離と共に除去され、全く健康な齒齦が出現するに至る。

齒齦マッサージには手術後指頭にこのコーヒー粉末をつけて力づくよく全齒齦をマッサージした。この際多少粉末が齒間鼓形空隙に入るを免れないが、併しこれは患者に強く含嗽することを命ずれば容易に除去し得て外觀を損するやうなことはない。

私は今日迄眞性膿漏型及び齒齦増殖型約 50 名の患者についてコーヒーを應用したがその臨床成績は良好であつた。

#### 總括

(1) 齒齦切除後の收斂並に止血の目的にガーゼ綿花して創面を壓し、これにコーヒーの粉末を撒布して置けば數分にして止血した。この際患者に含嗽を命じても差支へはないが、この粉末は決して完全に除去されずに附着してゐた。

(2) 齒齦マッサージの施行に當つては術者又は患者の手指にこの粉

末をつけて力強く行へばよいのである。

(3) コーヒー單獨でマッサージを行ふよりもビタミンC製劑又はビタミンCを含有する果汁と併用すれば一層効果がよいと云つてゐる者もあるが眞偽の程は不明である。

(受附：昭和17年2月23日)